

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 23 日現在

機関番号：14202

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25862255

研究課題名(和文) 性成熟期の女性労働者を対象としたヘルスリテラシー尺度の開発

研究課題名(英文) Development of a health literacy scale for women of reproductive age

研究代表者

河田 志帆 (KAWATA, SHIHO)

滋賀医科大学・医学部・助教

研究者番号：70610666

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：性成熟期女性が女性特有の疾患の予防、早期発見のためにはヘルスリテラシーの向上が重要である。本研究ではヘルスリテラシーを測定する尺度の開発と尺度を用いた性成熟期女性の特徴について明らかにした。

開発した尺度は専門職や女性労働者の意見を取り入れ、13項目に洗練することができ、より簡便な尺度への可能性が示唆された。また、性成熟期女性のヘルスリテラシーには、婚姻歴や妊娠歴が影響している可能性が示唆された。これらの結果を基に、ライフイベントの経験が少ない女性を対象としたプログラムの構築の必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：Health literacy is important for the prevention, early detection, and treatment of female-specific disease. This study aimed to develop a health literacy scale for women of reproductive age.

This scale was incorporated the opinion of professional and female worker, can be refined item 13. The analysis revealed that life events such as marriage and pregnancy correlate to the health literacy of women reproductive age. It would appear that women's life events is affecting their health literacy. It is necessary to develop a program for women unmarried based on this result.

研究分野：産業看護

キーワード：性成熟期女性 ヘルスリテラシー 女性労働者

1. 研究開始当初の背景

わが国では女性の社会進出が進み、特に20～30歳代の女性労働者が増加している。20～30歳代はライフサイクルにおいて性成熟期とされ、結婚や妊娠、出産などのライフイベントを経験する時期であるが、この時期の女性労働者の4人に1人が月経痛やその他生殖器の疾患を健康上の心配としている。今後増加が予測される女性労働者の健康対策は、従来の母体保護のみならず、女性特有の疾患を予防するというリプロダクティブヘルスの視点から検討する時期に来ている。

一方、今日の高度情報化社会により、女性の健康に関する情報提供や相談を行うインターネットサイトが増加している。女性の健康課題は、人に相談しにくいという特性を持つことから、性成熟期の女性は妊娠や性感染症、避妊に関する情報をインターネットから入手しているという報告がある。しかし出産可能年齢にある女性の健康情報に関するリテラシーの低さが指摘されており、高度情報化社会における女性の健康支援には、教育が必要である。

そこで、本研究では性成熟期にある女性の健康課題の解決に向けて、健康情報の入手だけでなく、意味づけをした情報活用や行動変容を伴う能力であり、健康管理に必要な能力であるヘルスリテラシーという概念に着目した。

本邦におけるヘルスリテラシー研究は少なく、特に看護学の分野では、ほとんどみられない。また女性のヘルスリテラシーの実態についての報告もみられない。そこで、ヘルスリテラシーを測定する尺度を開発し、今後の女性の健康支援のための教育内容を検討する際の基礎資料とする。

2. 研究の目的

ヘルスリテラシーの概念分析の結果を基

に独自の尺度を作成し、性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度を開発すること。また項目の洗練について検討すること。

尺度を用いて性成熟期女性のヘルスリテラシーに関連する要因を明らかにすること。

3. 研究の方法

ヘルスリテラシーの概念分析の項目を基に開発した21項目からなる尺度の簡易版尺度の開発に向けて、項目および女性の健康教育の在り方などについて、専門職および女性労働者にインタビュー調査および質問紙調査を行った。

さらに、先行研究で開発した尺度(21項目版、以下ヘルスリテラシー尺度)を用いた関連要因の検討を行った。ヘルスリテラシー尺度の合計得点を中央値で2分し、年齢および学歴を調整した単変量解析を行った。

4. 研究成果

【尺度開発】先行研究では、21項目からなる性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度を開発した。この尺度の信頼性は、信頼性係数の算出により、尺度全体の係数は0.88、再テスト法によつ再現性では $r=0.85$ ($P<0.01$)となり信頼性が確保された。また子宮頸がん検診受診行動別の尺度得点の差や、健康行動を測定する尺度との関連 $r=0.44$ ($P<0.01$)により妥当性が確保された。

また、今回の研究目的として、開発した21項目をより洗練し、簡便性の向上を目指した。インタビュー調査で得られた意見や、各項目の因子負荷量0.5を基準に項目を絞りこんだ。その結果、第1因子【女性の健康情報の選択と実践】は「女性の健康についてたくさんの情報から、自分に合ったものを選ぶことができる」、「インターネット・雑誌などで紹介されている女性の健康

についての情報が正しいか検討することができる」、「医療従事者（医師・保健師・看護師・助産師等）のアドバイスや説明にわからないことがあるときは尋ねることができる」、「医療従事者（医師・保健師・看護師・助産師等）に相談するときは、自分の症状について話すことができる」、「自分の体について、心配事があるときは、医療従事者（医師・保健師・看護師・助産師等）に相談することができる」の5項目となった。第2因子【月経セルフケア】は、「体調の変化から月経を予測することができる」、「自分の月経周期を把握することができる」、「月経を体調のパロメーター（基準・目安）にしている」の3項目となった。第3因子【女性の体に関する知識】は、「妊娠のしくみについての知識がある」、「避妊の方法についての知識がある」、「性感染症の予防についての知識がある」の3項目となった。第4因子【パートナーとの性相談】は、「パートナーと性感染症予防について話し合うことができる」、「必要なときは、パートナーと避妊について話しあうことができる」の2項目となった。以上の13項目からなる簡易版尺度として、今後の利用可能性についてさらに検討する必要がある。

また、20歳代女性労働者のヘルスリテラシーに関連する背景や保健行動について明らかにすることを目的とし、分析をおこなった。特に20歳代の女性労働者に焦点を当てた理由として、労働力率が約80%と最も高いこと、子宮頸がん検診受診率が最も低い年代であり、性交経験率が上昇し、20歳代後半でその割合は約80%に上ることから、性感染症などのリスクが高まり、今後の就労生活を含めたライフプランの構築に重要な時期であると考えたためである。

ヘルスリテラシー尺度得点を従属変数とし、群間比較で有意差がみられた年齢、学歴、婚姻歴、妊娠歴、子宮頸がん検診受診

歴のうち、婚姻歴、妊娠歴、子宮頸がん検診受診歴を独立変数、年齢、学歴を調整変数とした。婚姻歴を独立変数、年齢、学歴を調整変数とした単変量解析では、婚姻歴有のオッズ比(odds ratio: OR)1.75、95%信頼区間(95% confidence interval: 95% CI)1.09-2.82であった。同様に、妊娠歴有はOR 1.82(95%CI: 1.07-3.11)、子宮頸がん検診受診歴有は、OR 1.85(95%CI: 1.36-2.51)であった。

以上のことから、20歳代の女性労働者のヘルスリテラシーには、婚姻や妊娠などのライフイベントや保健行動との関連性が見られた。また、インタビュー調査では月経や不妊、自分の体について見直す機会となるような健康教育の内容が重要であるとの示唆を得た。これらの結果をもとに、性成熟期の入り口となる20歳代前半の女性をターゲットに、ヘルスリテラシー向上のためのプログラム開発の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

若年女性労働者に対する産業保健活動の検討-20歳代女性労働者のヘルスリテラシーとライフイベントおよび子宮頸がん検診受診行動との関連-

河田 志帆, 畑下博世 (2015)

日本公衆衛生看護学会誌 4(1)(印刷中)(査読あり)

性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の開発 女性労働者を対象とした信頼性・妥当性の検討

河田志帆, 畑下博世, 金城八津子 (2014).

日本公衆衛生雑誌, 61(4), 186-195. (査読あり)

〔学会発表〕(計 3 件)

Intervention Methods in Sex Education
Program for Adult Women: A Literature
Review

S.Kawata, E.Saito

18th East Asian Forum Nursing Scholars
2015 Taipei TAIWAN . 2015.2.5

在日ブラジル人妊婦のソーシャルネット
ワークについて

畑下博世, 鈴木ひとみ, 河田志帆, 西出
りつ子, 井倉一政, 金城八津子
第 73 回日本公衆衛生学会総会 (栃木)
平成 26 (2014) 年 11 月 5 日

性成熟期女性のヘルスリテラシーの実状
河田志帆, 畑下博世, 西出りつ子

第 72 回日本公衆衛生学会総会 (三重)
平成 25 年 (2015) 10 月 26 日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者 河田 志帆

(KAWATA. Shiho)

滋賀医科大学・医学部・助教

研究者番号: 70610666